

新小岩支部サークル協 ソフトボール大会を開催



新小岩支部は九月十日、支部サークル協主催によるソフトボール大会を、五十名結集のもと江戸川グラウンドで行いました。

支部サークル協では、吹き荒れる国鉄攻撃にたちむかうためには組合員の団結が重要であるとの認識で、年間多くのサークル行事を計画しています。ソフトボール大会は誰でも参加できる行事として七月に計画したものが、雨で順延となつて九月十日に開催となりました。

ELチームに栄冠

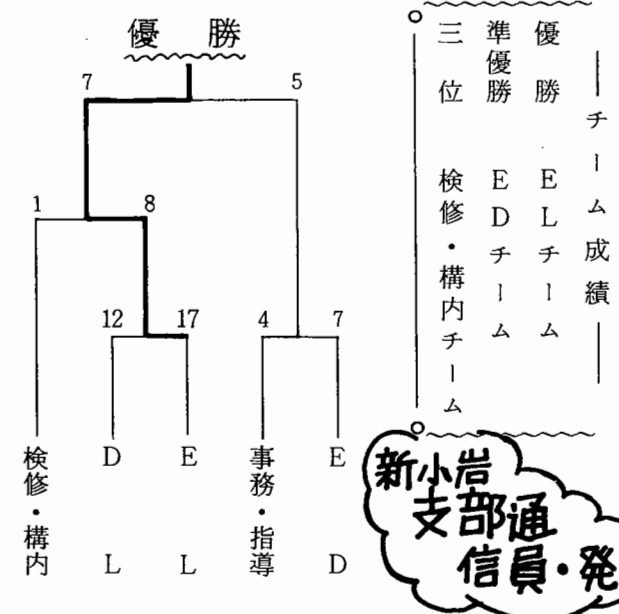
当日は絶好の運動日和となり、九時に松崎支部長、本部より関執行委員をはじめ、各分科会より多数の組合員が機関区に集合し、車で江戸川グラウンドへむかいました。

大会の組み分けは、EL、ED、DL、事務・指導、検修・構内の五チームに分け、トーナメント方式とし、開会式、準備体操に続いてELチーム対DLチームの対戦が始まりました。

ファイナルプレー、珍プレーが続出し、和気合々のうちに試合は進行し、決勝戦はED組対EL組となり、ED組は5点を先行しましたが、五回に若さに勝るEL組が一挙に6点を奪い逆点、7対5でEL組が優勝しました。

試合終了後、表彰式が行われ、松崎支部長より多数の賞品が手渡され、盛大な拍手の中で閉会しました。

こちらは江戸川河川敷。
当局に対決し、組合の団結を強化するためにこそ、われわれは組合独自のサークル活動を育て、強化していくのだ。
(松崎靖支部長より、表彰状と賞品をうける参加者)



勝利争闘ジェット塚三里 / 粉碎粉革行調臨

津田沼支部通信員・発

かぎりなく当局に一体化し、挑発一タレコミ。 告訴路線にのめりこむ本部革マルに、職場の怒りが爆発

津田沼支部では八月以降、動労「本部」の合理化推進路線、全国大会での「嶋田 誠発言」等について、職場内やホームの詰所で、革マル分子、海宝、野口、嶋田らに対する組合員の怒りの追及が行われている。

「千葉でも、靴下の賞品をもらったらしいじゃないか」

「革マル・野口、海宝」

これに対し、野口（デッチ上げ千葉地本青年部長）らは反動的に居直り、「入浴闘争が闘われていた真最中に、

動労東京地本役員が東京三局の課員と荒川河川敷でソフトボール試合を行い、全員が靴下をもらった」問題を追求され、「当局と一緒にやっつてどこが悪い。靴下をもらつてもいいじゃないか。くやしければいいじゃないか」と発言したのだ。

「やるなら、首を覚悟しろ」

「当局と一体の挑発・タレコミ分子」

さらに、告訴路線をも強め、組合員の追及に答えられなくなるとわざと挑発的言辞や態度を示し、組合員が怒る

と「やるんですか、やるなら首を覚悟でやって下さいよ」と、当局と一体となつた姿をあらわにし、タレコミ・告訴路線を強めている。

これは特に、野口、海宝が行っている。嶋田は質問にほとんど答えず、「関係ない」「おれは知らない」「いまにわかる」という対応に終始している。

津田沼支部組合員の怒りは、はち切れんばかりである。当局の尖兵、革マル分子を必ずや追放一掃する決意を明らかにする。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！